

4 技術サロンへの想い

■私のホッとステーション、技術サロン

佐藤 佳乃

技術士という資格自体を知ったきっかけは、学部生の頃に現在「特定非営利活動法人女性技術士の会」の理事長である木村了先生の講義で、資格の存在を教えていただいたことでした。当時の私の認識は「なんとなく、技術者として働く上で有用そうな資格だな」という程度で留まり、そのまま大学院進学へ向かっていました。しかし就職活動を意識し始めた頃、様々な企業の採用案内で“技術士”という文字を見つけました。むしろ、その文字を見かけないことがありませんでした。そのため、「有用そうな資格」から「間違いなく必要な資格」と考えが変わり、資格についてきちんと理解したいという思いが、技術サロンに参加したきっかけでした。

技術サロンでは技術士が社会的に高い評価を受けていること、業務遂行において有用となる資格であることを知りました。しかし、私が感動したのは「仕事をする上での強いモチベーション・責任感の土台となっている」という話でした。私は技術士を肩書きの一種としてしか考えていなかったため、資格が自負となって仕事に臨んでいる女性技術士の方々はとても眩しく感じられたことを今でも覚えています。技術サロンの帰り道もエネルギーが充填された感覚で満たされており、エネルギー充填を求めているのか、気が付いたら継続的に参加するようになっておりました。

そして、大学院1年次に参加した技術サロンで聞いた「技術士は決して届かない目標ではない」という言葉をきっかけに、「学生だから」と躊躇していた技術士第一次試験を受験して無事に合格し、修習技術者という身分を手に入れました。修習技術者になってからも継続して技術サロンに参加する中で、技術

士第一次試験についての質問が少なからずあることを知り、この他にも学生の悩みに共感できることも多く、元気をいただいた技術サロンに恩返ししたいとの思いで主催側として参加することにしました。

恩返ししたいという思いで主催者として参加するようになった技術サロンは、技術士受験へのモチベーションを維持するために大切な存在に変わりました。当時、私の前職場には若い技術士が少なかったため、受験に対して後ろ向きになっていたことがありました。しかし、技術サロンで現役の技術士および同じ目標と悩みを持つ女性技術者と直接交流することにより、現在は再び目標を維持しております。

ここまでの文面では、私は精力的に活動しているように見えるかもしれませんが、実際は身体を壊したため約1年半働けない時期がありました。

現在は新たな職場（東京から新幹線で1時間程の距離）でひよっことして再スタートしておりますが、年齢だけで言えば社会人として中堅であるため「もっと頑張らなければ」と必死に動く日々です（時に空回り）。

物理的な事情からサロンにはなかなか顔を出せない状況ではありますが、同じ悩みを持つ学生及び社会人のために、そして自分のためにも「ホッとステーション」である技術サロン。今後もささやかながら参加し、参加者の方と一緒に技術士を目指していきたいです。

執筆者：佐藤 佳乃

技術サロンの参加者から、修習技術者となりスタッフへ。

参加者と年齢も近く、両方の立場が分かる存在。

技術士補：農業部門



■就職活動期の経験

黒木 みつ子

私が国立大学の海洋微生物の研究を行う研究室で研究補助員として勤務していた当時、研究室には毎年、2～5人程度の農学部3年生が配属されていました。配属された学生は、しばらくすると就職活動期に入ります。大学で行われる就職活動支援セミナーは、基本的なスケジュールや心得が大半です。学生がエントリーシートや履歴書の作成、面接、内定と進んでいくのを見ながら、とりあえず働きたいという気持ちが先行し、就職後自分がどのように働いて、どうなっていたいのかということまでは考えることができていないように感じています。

ある学生から2つの業種で、どちらを選ぶか悩んでいると相談を受けたことがあります。一つは内定が取りやすそうで様々なところに派遣されて仕事を行う会社、もう一つは内定が取れるか自信はないが客先に改善のアドバイスをするような技術職でした。その学生は仕事内容が分かりやすく、内定が取りやすそうな会社に魅力を感じていたようですが、話を聞いていた私は10年・20年先にどのような仕事をしていて、どのようなことができるようになっていくのか、また、自分はどうなっていたいのかを質問しました。すると、今までこのような考えで仕事を見たことがなかったのか、考え込んでしまいました。この時、私は今後長い期間働くので、先のことを考えて仕事を選ぶ方が良く、分からなければ受ける会社に質問するのもいいのではとアドバイスしました。その後、その学生は企業で質問等をするなどして、仕事のイメージが掴めたようで、技術職に絞った活動に切り替え、希望の会社から内定をもらうことができました。そして、大変な仕事だけど、まずは「〇〇を頑張る」と意気込んでいました。

就職前に、社会人から仕事の経験を聞く機会は、大学や企業の主催するセミナー等であるかもしれませんが、技術職の経験を聞く機会は少なく、特に技術

職で働く女性の経験を聞く機会はほとんどないと言っていいのが現状です。これに対して、技術サロンは技術職で働く様々な女性から話を聞くことができます。これから就職を目指す学生に自分の将来を考える機会を与えることができます。自分の将来像を持って社会に出ることによって、技術職に就き続ける割合も増え、女性技術者の増加も期待できるかも知れません。

現在、技術サロンはほとんど東京で開催されているため、首都圏以外からは参加が難しい状況です。首都圏以外の場所で技術サロンを開催できれば良いですが、地方に行けば行くほど女性の技術者は少ないため、実現が難しいと感じています。

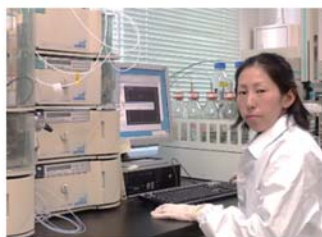
このような状況なので、学生や若手技術者が技術職で働く女性の経験を聞く機会である技術サロンに、ネットシステムを活用するなどして、地方からでも気軽に参加できるシステムを構築できればと思います。

執筆者：黒木 みつ子

大学の研究者を経て、リネンサプライを行う会社に勤務。水質管理の業務に携わっている。

技術サロンでは広報を担当。

技術士補：環境部門（写真は大学のラボにて）



■場づくりと雰囲気づくり

花岡 史恵

昨今、就労状況等における男女格差が縮まってきているが、比較的、女性技術者の少ない地方においては、高等専門学校や大学の理工系学部で学ぶ女子学生の数も少ないため、就職を含めて将来への不安を抱える女子学生は少なくありません。そんな中、技術サロンは、技術系職業を目指す女子学生が、実社会で働く女性技術者の生の声を聞ける機会であると同時に、悩みや不安の相談が行える場になっています。それ故に、技術サロンの場づくりと、気軽にその場に参加できる雰囲気づくりは重要になってきます。私は、都市及び地方計画の技術士として、住民参加のまちづくりを企画・運営させていただく機会があり、その観点から、徳島で開催した技術サロンでは、アイスブレイク手法を取り入れながら、話しやすい場として提供しました。参加者数は少なかったものの、参加者の構成が、女子学生と高専および大学の女性教員であり、学生の立場での将来への不安や、教員の立場での女子学生への指導上の悩みなど、多岐に渡る話を聞くことができ、学校内における学生と教員双方の悩みや不安を知ることができました。

技術サロンでは、その解決には至らないまでも、学生と教員が同じテーブルで、女性同士として率直に話し合いをすることにより、お互いの立場への理解が生まれるきっかけとなったことは大きな収穫であったと思います。

その後、私は、技術サロンとは別に、高専の出前講座で、女子学生の話聞く機会を得ることがあり、この中でも、女子学生にとって、先輩の女性技術者と交流する場は重要であると実感しました。

今、社会は少しずつですが変わりつつあります。女性技術者の細やかな心遣いや仕事への真面目な姿勢は、建設や土木の世界でも重要視され始めています。

その社会へ少しでも多くの女性を送り出すためには、女子学生の不安や悩みを聞き、一緒に考え、共により良い解答の糸口を探り当てるための取り組みが

必要で、技術サロンは有効な手段と言えます。

これからも、できるだけ多くの女子学生に、技術サロンの存在を知ってもらい、東京だけでなく、地方で開催する機会も増やし、気軽に参加できる場づくりや雰囲気づくりを継続することで、より多くの女性技術者の育成を推進することが重要であると思います。そして、それを行うことが、先輩技術者である私たちの使命でもあるとも思っています。

また、徳島県技術士会では、2015年度より、女性部会を発足し、技術者を目指す女子学生および女子社員（職員）を対象として「阿波なでしこ技術サロン」を開催し、女性ならではの悩みや課題について意見交換を行い、親交を深めながら女性技術者のネットワークづくりを行っています。

執筆者：花岡 史恵

建設部門の技術士として活躍。様々な地域興しにも参画。

四国地域で開催の技術サロンでは中心的な存在。

(徳島県在住)



写真④ 技術サロン in 四国

■お互いを認め合う場として

角田 ふで子

技術者になろうと考えている女子学生を応援しようと始まった技術サロンも、8年経った今では社会人も加わり、いろいろな刺激を受ける楽しい催しとなりました。学生は大学1年生から大学院生まで、社会人は新人から成人に近い子供がいる年代まで、いろいろな人たちが参加しています。そのため、お互いがロールモデルになるので話題が尽きず、毎回後ろ髪を引かれる思いで技術サロンをお開きにしています。

技術サロンには「意見交換会」として各人の悩みや心配事などを参加者みんなまで話し合う時間があります。その中では、男女雇用機会均等法が施行されてから30年経つ今でも、「女性は研修に参加できない」「結婚が決まった途端、仕事から外された」「子供を産んだら、技術職から外された」などという話がたくさん出てきます。女性に対して、接し方がわからず、でも守るべき存在だから、ということでいろいろ気を回してくださった結果なのだろうと思います。女性は技術分野においてまだ「よそ者」であり、一緒に仕事を続けていく「仲間」にはなっていないのかもしれませんが。

今の社会は効率が第一のため、背景が同じ人たちで仕事をする方がやりやすいことは理解できます。しかし、現在の人口構成や将来予想を見ると、それはできなくなってくると思います。今後は、人それぞれの背景、つまり「多様性」を認め合いながら、一緒に仕事をしていくことになるでしょう。法制度や就労規則で男女均等に機会を与え、産休育休などは認められていますが、一人ひとりがそれを本当に認めて、行動しているのでしょうか。心無い一言で、やる気いっぱいの女性技術者の心を折っていないのでしょうか。

その「多様性」を実際に目にすることができる場が、この技術サロンです。就職、結婚、育児、介護。いろいろな背景を持ちながら仕事を続けてきた女性たちが参加しています。このような方たちの話を聞くことにより、どのような

思いで仕事をしてきたのか、どのようなことが大変だったのか、どのように考えて対処してきたのか、がわかります。そうすれば、接し方も変わり、必要以上に気を回さなくても案外やってくれるものだとわかってくると思います。これまでの参加者は女性だけですが、これからは男性にも参加してもらい、悩みや心配事を話し合えるような場になることを期待します。

仕事も、育児や介護も男女共通の課題です。これらの課題を男女それぞれの視点から考え、共有できるようになれば、お互いを認め合う本当の「仕事仲間」になれるような気がしますし、そうなってほしいと思います。

執筆者：角田 ふで子

環境部門の技術士として活躍。技術サロンへは進行役として参画。

小中学校の理科教育の場でも活躍。



写真⑤ スケジュール説明と「技術士とは」の説明

■技術サロンの意義

小林 進

我が国には理系は男性の領域と思い込んでいる親が意外に多く、このような考えを取り払うために、理系の大学では女子高生を対象とした説明会を行っている。この説明会では理系を選択した女性の学部生、大学院生、教員が自らの体験を語り、理系に進むための障壁を取り払うためのプログラムが組まれている。しかし、社会に出てからの話は少ない。

このような状況において、技術サロンは技術職を目指して JABEE 認定課程およびその他の課程で学ぶ女子学生、若手女性技術者を対象に女性技術者としてのロールモデルを示し、キャリアの選択肢を広げる場として行っている。そのため、先に紹介した女子生徒を獲得するための説明会と異なり、現実の生々しい話が多く聞くことができる。出てくる話の多くには、技術職に限らず、社会で責任を持って仕事を行うには男性も女性も責任の重さは同じという共通点がある。したがって、責任を果たすための取り組みや考え方は人や立場により異なるため、様々な話の中から自分の環境に合ったものを探し、自分の将来を選択するために活用できる場になっている。

先日、女性弁護士の方に話をする機会があり、「何故、弁護士の道を選択したのですか」と素朴な質問をしたところ、周りが弁護士になっているので何も躊躇することは無かったという意外な答えが返ってきた。そこで、Web ページで女性比率を調べると平成 23 年時点で日本弁護士会連合会に登録されている女性弁護士の比率は 16.9%であり、女性技術士の比率に比べるとはるかに多い。一方、看護師の領域では平成 24 年時点で男性看護師の比率が 7.2%と圧倒的に女性が多く、看護師を育成する専門学校では男子生徒が教室の片隅に固まっているとの話を専門学校で教える教員から聞いたことがある。しかし、2008 年と 2012 年を比較すると男性看護師は 1.47 倍の増加、女性看護師は 1.23 倍で、増加率だけを見れば男性看護師の方が上回っている。このような動きの

背景には、4年生看護学部の登場、都市部の先進的な病院を中心に男性、女性関係なく優秀な人材を採用する動きの広がりがあると聞いている。また、男性と女性ではものの見方が異なるため違った角度からの意見交換が看護業務の改善に繋がる、患者には男性も女性もいるため複眼的なアプローチが必要などの話もあり、積極的に男性看護師を受け入れる動きがあるようだ。

この話は、技術職においても通じるものであり、日本の職業に対する見方、考え方の偏りと周囲にロールモデルが少ないことによる不安が女性技術者の選択肢の幅を狭めている原因とも考えられる。一方、社会的には男性、女性関係なく優秀な人材が積極的に採用される方向に進んでいるのも確かである。

したがって、自らの責任で自ら希望する道を選択するために、技術サロンの場を積極的に活用して欲しい。また、現在、技術サロンは女性を対象に行っているが、これも一つの偏見かもしれない。将来的には男性、女性関係なく自分の将来を考えるこのような場が必要なかもしれない。

参考資料：「この5年間で1.5倍に。男性看護師が急ピッチで増えている！」

<http://journal.shingakunet.com/career/8768/>

執筆者：小林 進

女性技術者が比較的多い職場での経験をもとに、技術サロンでは上司の立場、男性技術者の立場など多角的な視点でアドバイス。

技術士：情報工学/総合技術監理部門



■ 「技術士資格」は、プロエンジニアへのパスポート

宍戸 道明

企業の商品開発業務に従事していた若造の時代、物性について丁寧に教えて下さった材料メーカーの社長との付き合いがありました。技術士第一次試験合格後、「あらためて申し上げるのも何なのですが…」名刺に“技術士補”と記した新しい名刺を渡して挨拶しました。すると、その日を境に私に対するフランクな語り口調が一変し、ビジネスライクな対応になりました。その会話の際、「自分は技術者として見られている」と大きな実感を憶えたものです。社長は「技術士」の格や難易度について詳細な見識をお持ちの方でありました。二十代前半、陽春の候です。

その技術者は現在、縁あって「ものづくり」から「ひとづくり」にそのフィールドを変えました。数えること8年前、卓越したダイヤの原石ふたつをクラスに見つけ、技術士第一次試験の受験を勧めました。“卓越した～”とはいえ、17歳（本科3年）という年齢の彼らの挑戦には勧めた私自身が決して高い勝算があったわけではなく、まさに“挑戦”でした。受験の緊張感が過ぎ去った頃、クリスマスプレゼントは届きました。「先生、やりました!」。そして県内最年少合格者として報道・新聞紙面で紹介されました。理工系四年制大学卒業程度とされる第一次試験のレベルであろうと、高専生（本科生）でも十分に手が届くとの手応えをつかみ、テクニカルスキル保有の客観的“ものさし”として、理工系エンジニアのキャップストーンとしてさらなる受験奨励を図ってきました。

平成25年度、本校初の女性合格者（本科4年）が誕生しました。続けて平成27年度には3名の女性（本科2年1名、本科3年2名）が合格を果たしました。彼女らはともに17歳、女性としては国内最年少（（公社）日本技術士会調べ）に並ぶ合格（うち1名は技術士補登録済み）を果たしました。将来のキャリアプランを明確に掲げ、自己実現のため意欲的な学習姿勢で邁進しており、

将来性を感じさせてくれています。しかし彼女らは口を揃えて言います。「この試験制度を先生が教えてくれなかったら、技術士資格すら知らないままだったであろう」と。

平成 28 年 12 月技術士を志す女子学生を帯同し、同サロンに参加させていただきました。女性が理工系エンジニアを志すにあたり、女性特有の悩みや不安（ライフイベントなど）を共有し、自由な意見交換を通して問題解決を見だし、Q&A 集としてノウハウ蓄積・提供を図る非常に有意義な機会に触れるとともに、そのような側面を男性が理解する意義を学びました。ベテランの女性技術士スタッフの方々が生き生きと眩しく見えたことが印象的でした。

「平凡な教師は言っただけで聞かせる。良い教師は説明する。優秀な教師はやってみせる。しかし最高の教師は子供の心に火をつける（ウィリアム・ウォード）」私自身はそんな存在でありたいと思いつつ、彼女らに続く女性技術士の啓発活動を続けてゆく所存です。

執筆者：宍戸 道明

鶴岡工業高等専門学校創造工学科教授。技術士（機械/総合技術監理部門）、博士（工学）。

医療機器の研究開発、技術士事務所を経て、現職へ。山形大学非常勤講師。



■ 「繋げる」

岩熊 まき

私は医薬系以外は女子の理系進学者が殆どいなかった団塊世代の元祖リケジョです。

就職した建設コンサルタントは、その時代に理系大卒女子を採用していました。私は女子が働くという点での**職場環境改善の進言**もし、対応してもらいました。上司や先輩に恵まれていましたが、そうはいつでも、職種は分析の専門職でしたので、「30歳なってもここでこのまま試験管振っているのかな」との思いはあり、この先の**将来の自分の姿**は描けませんでした。そしていつの間にか周りは後輩ばかりになっていました。

男性技術者の様子を見ながら私も技術者としてキャリアを重ね、32歳で技術士を取りました。ところが気が付いたら**孤立無援**でした。これはダメだと、会社を超えて仲間をつくり、ネットワークをつくり、初めは自分のために、そして後輩のために、若い女性のために、子供が生まれた時も、中学受験の時も、病気の時も、家族の単身赴任やたび重なる引っ越しがあっても、建設コンサルタント技術者としてのキャリアアップとこの活動を休むことなく**繋げて**きました。仕事、キャリア、結婚、育児、介護、今で言うワークライフバランス等、友人となった多くの人々のそれぞれの**体験や工夫**を参考にしてきました。自分がつらい時でも「あの人ほどではないからガンバロー」と思う事も何度か。。。

2016年の年末、古い書類を片付けました。その箱には私の社会貢献活動の歴史が詰まっています。女性に限定すれば、土木技術者女性の会を皮切りに、女性技術士の会、国際女性技術者会議日本支部などの記録や運営メモです。既存の組織やグループは無い時代、振り返ると私は、先駆けて常に白い紙に墨の一滴を落としてきたと思います。

もう皆さんお分かりでしょう。半世紀近くに渡る私の歩みの中で技術サロンの構想は、**当然のように**生まれてきました。まだ男女共同参画推進委員会(2011年設置)がなかった2007年当時、特定非営利活動法人女性技術士の会の事業(JABEE課程女子学生との交流会並びに懇話会)として企画、実施組織は日本技術士会にプロジェクトチーム(現登録グループ)WPETF(技術者をめざす女子学生を支援する会)を立ち上げ、協力して開始しました。その時の企画書の一部を紹介します。素晴らしく崇高な精神を持ってボランティアでスタートしています。その後JABEE課程や女子学生に限定せず幅を広げてきました。参加者が1名でも開催する、年4回の定例にする、出前もする、これらを守り、いま活躍中の開始時メンバーも受け次いでいるメンバーも、その**志を繋げて**います。

設立の趣旨(2007年)抜粋

内外の女性技術者ならびに理科系女子学生との交流を通じて、次代の女性技術士(者)の養成に協力し、男女共同参画社会形成実現への一助とする。具体的な活動は、技術者をめざす女子学生へのキャリア形成の応援のための懇話会開催とロールモデルの提供等。

活動の目的と概要(2007年)

- * JABEE課程女子学生への技術士資格の理解促進
- * 技術士補への受験の進め
- * 女性のキャリア形成のアドバイス
- * サイエンスカフェのイメージで気楽に話す

執筆者：岩熊 まき

前WPETF代表、前特定非営利活動法人女性技術士の会理事長、前男女共同参画推進委員会委員長。技術サロンの生みの親。女性技術士の良き先輩、アドバイザー。

技術士：応用理学部門



■技術サロンを運営して

男女共同参画推進委員会女子学生支援WGリーダー

笹尾 圭哉子

(技術士：上下水道部門)



技術サロンは、私にとって、ライフワークと言っても過言ではありません。3ヵ月に一度開催し、当初から殆ど同じプログラムで進行しています。このように書くと、同じことを繰り返しているように思われるかも知れませんが、本報告の「技術サロンの声」にありますように、質問や相談の一つひとつが参加者の少しずつ異なる立場や状況を反映した多様なものであり、それらへの回答も、回答者一人ひとりの経験から出た、実践的な内容です。これから技術者や技術士を目指す若い方もベテランの方も、男性の多い職場で戸惑っている女性技術者も、逆に女性の部下の育成に悩んでいる上司の方など、是非、多くの皆様に読んでいただきたいと思います。

今後は、技術サロンに参加された方にも主催者側として加わっていただき、50回、100回を目指して継続していきたいと思います。

■編集後記

委員長が交代したこと、第1版の残部数が少なくなったことから、このたび技術サロン報告書の第2版を作成しました。

第1版では、第1～25回までの技術サロンを総括し、「女性技術者育成への提言」を示しました。第2版では、第26～32回までの「技術サロンの声」を追加したほか、「技術サロンへの想い」に新たに2編の「想い」が加わりました。多くの方に本報告書を活用していただければ幸いです。

(編集者一同)

【技術サロン運営メンバーの紹介】

本報告書の作成や技術サロン開催においては、本報告書に登場した執筆者をはじめ、様々な専門分野のメンバーが参加しています。

神下 栄	技術サロンでは、女性技術者の増えている建設現場での経験を踏まえ、働き方などをアドバイス。 技術士：建設/総合技術監理部門	
佐野 愛美	学生時代から技術サロンへ参加、その後スタッフへ。現在、3才児の母として子育て真最中。本報告書ではアンケートの取りまとめなどを担当。 技術士補(JABEE 課程修了者)：応用理学部門	
嶋田 弘僧	技術サロンでは、ときには男性上司の視点から、働き方などについてアドバイス。 技術士：情報工学/総合技術監理部門	
中田 よしみ	技術サロンでは、ワーク・ライフ・バランスなどについて、自身の経験も踏まえてアドバイス。 技術士：原子力・放射線部門	
平塚 由香里	技術士資格取得後転職も経験。 本報告書では Q&A 回答者として参加。 技術サロンでは窓口を担当。 技術士：電気電子部門	
廣瀬 由紀	建築事務所勤務で一級建築士の資格も所持。 本報告書では Q&A 回答者として参加。 技術士：情報工学部門	
松下 幸之助	内閣府職員の立場(現在は大学教授に着任)から、国の政策関連の情報などを提供。 技術士：機械部門	
山地 真吾	F1エンジンの研究開発に携わった技術者。 現在は、個人の技術コンサルタントとして活躍。 技術士：機械部門	

平成 27 年 6 月 第 1 版 第 1 刷

平成 28 年 5 月 第 1 版 第 2 刷

平成 29 年 5 月 第 2 版 第 1 刷

編集 公益社団法人日本技術士会男女共同参画推進委員会

登録グループ 技術者を目指す女子学生を支援する会

(WPETF)

発行 公益社団法人日本技術士会男女共同参画推進委員会

